

会議結果報告書

1	会議名	戸別収集実験事業に関する説明会（海岸地区）
2	日時	令和7年2月1日（土）10:00～11:00
3	場所	茅ヶ崎市立図書館
4	出席者	（資源循環課）小俣課長、森岡課長補佐 （環境事業センター）小田主査 （海岸地区）参加人数：6人
5	内容	<p>資料に基づき、戸別収集実験事業に関する説明会を実施した。主な質問と意見は次のとおりであった。</p> <p>● 何故、海岸地区の一部が対象となったか教えて欲しい。 → 茅ヶ崎駅南口周辺、とりわけ、サザン通りから東、雄三通りから西、鉄砲通りから北の地域については、他地域からのごみ出しやポイ捨て、事業者の“なりすまし”によるごみ出しが多く見受けられるため、対象エリアとした。</p> <p>● ごみ有料化実施時に戸別収集を見送った理由は何か。 → 戸別収集を実施する財源を確保できないこと、また、当時行ったアンケート調査によると、戸別収集の実施を望む方と望まない方との割合が同率であったことから、実施を見送った。</p> <p>● 何故、今になって戸別収集を実施するか。 → 有料化実施時に戸別収集は見送ったものの、その後、継続して検討を重ねてきた。審議会への諮問やアンケート調査などを進めてきたが、アンケート調査では、戸別収集を望む方が一定数いることのほかに、ステーションの維持管理に際し、不公平感を抱く方が少なからずいることが明らかとなり、また、審議会からは、行政も市民も戸別収集を体験してから是非を判断するべきとの答申を頂戴した。これまでの検討の中間的な集成として策定した「ごみ収集方式のあり方」の中に戸別収集の社会実験を位置付け、この度の戸別収集の実施に至っている。</p> <p>● 他市の戸別収集の実施状況について教えて欲しい。 → 県内では、大和市、藤沢市、秦野市、厚木市、海老名市、平塚市で戸別収集を実施している。ほとんどの市は、「燃やせるごみ」のみを対象としているが、大和市は、「燃やせるごみ」に加えて「燃やせないごみ」を、また、藤沢市は、「衣類・布類」と「古紙類」を除き、全品目を対象に戸別収集を実施している。</p> <p>● 戸別収集は良いが、何故、「燃やせるごみ」のみか。この地域では、「燃やせるごみ」よりも「プラスチック製容器包装類」に関する問題が多い。 → 「プラスチック製容器包装類」に関して問題が多いことは承知している。この度の実験事業については、現体制を大きく変えることなく、戸別収集を実施することに重きを置いている。「プラスチック製容器包装類」の戸別収集となると、体制を大きく変更しなければならず、そのことに伴い相応な費用が必要となってくる。ま</p>

ずは、「燃やせるごみ」を対象とした場合の影響や効果を把握し、「プラスチック製容器包装類」については、今後の対象の候補として議論を進めていきたいと考えている。

- 「燃やせるごみ」よりも「プラスチック製容器包装類」が多く排出されている。中にはルールを守らないものがあり、鳥獣被害などでステーション周辺の環境が悪化している。市は、もっと地域のステーションの現況を把握し、特に「プラスチック製容器包装類」を戸別収集の対象として検討して欲しい。

→ ご意見として賜る。

以上